

教職員・院生版生協だより

# かけはし

No. 254

2004年 7・8月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



エコトピアの基本理念は持続型循環社会の構築です。  
松井恒雄エコトピア科学研究機構長

名大生協のホームページ (URL) <http://www.coop.nagoya-u.ac.jp/>  
教職員委員会への e-mail あて先 [kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp](mailto:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp)

# もくじ

理事長に就任するにあたって(福家理事長)-----3

## 【インタビュー】

学問の魅力、学生、生協への期待—研究科長へのインタビュー⑧

松井恒雄エコトピア科学研究機構長-----4

## 【報告】

第76回通常総代会が開催され、140名が参加-----20

名古屋大学へ奨学制度への寄付をさせていただきました-----22

東海のなかま—活動交流会-----23

Peace Now!-----23

北部生協まつり教職員委員会企画報告-----26

教職員委員会の活動日誌-----26

## 【記事】

新フィールドノート—その83—

「たった一個のブナの実を求めて」-----18

ニュースに一喝 「人を呪わば穴二つ」-----19

魔言「納得できない」「勇壮・かわいい」-----24

かけはしの輪-----25

アンケート・クイズ解答用紙-----28

CO-OP QUIZ<Logic>-----29

# 理事長に就任するにあたって

名古屋大学消費生活協同組合理事長 福家 俊朗

国立大学の法人化は、国立大学をたんに私学化するに与えず市場における競争を通じて大学を淘汰すること、すなわち、客観的には民営化（私企業化）に移行するかまたは廃校とするかの「二者択一」をせまっています。完全な民営化や廃校にしろうじていたらなかったのは、高等教



育や研究の公共性まで否定できないからだといえるでしょう。いきなりこういう話から始めましたが、私たちには、その公共性を維持しさらに発展させる第三の道を選択することができかどうか問われています。

あらためて述べるまでもありません。大学で学び研究し教育する者には、真実に対する謙虚さと同時に、真実の追究のために不可欠な、時流や多数意見にとらわれず時の政権におもねらない自由で闊達な批判的精神が要求されています。そのためにも、大学の存在理由を理解しながら働く職員のみなさんも加えた自治が不可欠になります。むしろ

ん、ひとりよがりにならないためにも、大学が置かれていく社会との連携やその一員としての役割を自覚しつつ、究極的には人類の福祉の実現とその向上に仕えるという大学の使命の確信に基づいた自治でなければなりません。

そのような大学を支えしめて、自治の「知の府」を維持する条件や環境の整備に先進的な役割を果たしてきたのが名大生協（名古屋大学消費生活協同組合）であると思っています。その大学の構成員としての組合員のみなさんの大学における学修と生活および研究教育に不可欠であるにもかかわらず、これまで（また、これから）もその高い蓋然性を否

定できないのですが）貧困な大学財政とその少ない資源の配分が必ずしも民主的でなかったために不十分かつ欠けてきた、総合的な人的・物的サービスを提供してききました。

同時に、大多数の大学構成員が主体的に参加して設立した協同の組織によって、組合員の要求に基づきつつ、大学の使命を果たすための学修と生活および研究教育にふさわしいサービスの内容や方法で提供することが可能である、という特色もっています。したがって、名大生協は、これまで以上に大学におけるその研究やそれに基づく教育の公共性をいっそう高めてゆくためにふさわしいサービスの提供や環境の整備をはかる重要な主体になるし、ならねばならないと考えています。自治と協同によつて第三の道の選択を現実のものにするためにも、組合員のみなさんのご協力をお願いするしだいであります。（ふけ・としろうⅡ法学研究科教授）

# 学問の魅力、学生、生協への期待 — 研究科長へのインタビュー ⑧

## 松井 恒雄 (まつい・つねお)

### エコトピア科学研究機構長

#### 名大医学部を

めぐっていましたか……

加藤 これまで何人かの研究科長先生にお話を伺ってきました。松井先生にも同様のテーマでお話しいただきたいと思えます。お訊きしたいのは(1)先生のこれまでの研究内容や現在進めていらっしゃる事、(2)エコトピア科学研究機構に関わるお話、(3)学生や院生など若い世代への一言、(4)生協へのご意見・要望です。では最初のテーマからお願いします。

#### 原子核工学科一期生です

松井 私は昭和41年に入学しました名古屋大学工学部原子核工学科の一期生です。

高校のとき私は、社会に役立つことがやりたいと思っていました。文系か理系かで悩みましたが、理系への進学クラスに入り、理系の中では社会のためになる(役に立つ)ことといえば医学部と考え、結局名古屋大学の医学部を目指

して受験の準備をすることにしました。

ところが大学に願書を出す時になって、「将来のエネルギー源としては原子力が重要であり、名古屋大学にその学問を行う原子核工学科が新設される」という記事が中日新聞に出ました。純真なのか、浅はかなのか解りませんが……、私は記事を読んで、そうか、これからは社会に役立つエネルギーが重要課題だと思って、新しくできる原子核工学科を受験することにしました。もしその新聞記事を見ていなかったら、医学部を受験していたでしょう。

それから本学に昭和50年まで9年間一学部、大学院の修士課程、博士課程と在学して、50年3月に工学博士の学位をとりました。ですから名古屋大学の工学部原子核工学科で、当たり前ですけどドクターの第一号で、後で述べますけど卒業生の中で最初に教授になったのも私です。それは当たり前ですよ、

最初に入学したのですから。

学生の際は、社会に役立つエネルギー源の研究に関わってきました。今も原子力発電所で核燃料として使われているウラン酸化物—ウランという金属と酸素がくっついたウラン酸化物という化合物でそれが核分裂してエネルギーを出すものを研究していました。その燃料の研究を、ドクターを含め学生時代5年間一貫して研究しました。

研究はどちらかというと順調でした。日本の原子力研究の創成期と言いますか、黎明期と言いますか、そういう時代でしたので研究すること全てが世界的に見ても最先端でした。私が指導をうけたのは内藤圭爾先生で、日本で最初にプルトニウムを抽出した先生です。40代前半に日本原子力研究所から赴任され、学生と一緒に生き活きと、今と違って「こんなことを言うと怒られちゃうかな」教育に割く時間がたくさんあり、学生と先生の区別無く一緒に考え、一緒に失敗を悩み研究する、そういう意味で非常に楽しく充実した毎日でした。先生といっても教えるという立場ではなくて、研究のパートナーというように

「そつつか、これからはエネルギーが重要だ」と。  
新聞記事を見て、



(6月10日、エコトピア科学研究機構長室にて)

【略歴】

名古屋大学エコトピア科学研究機構長 (2004/04-)

名古屋大学評議員 (2001/04-2003/03)

名古屋大学核燃料管理施設長 (1999/04-2001/03)

名古屋大学大学院量子工学専攻・教授 (1995/04-)

名古屋大学工学部原子核工学科助手、助教授 (1980/04-1995/03)

【専門分野】

原子力学, 高温固体化学 (エネルギー機能材料学), 量子材料工学

最初から私を位置づけて一緒にやろうという雰囲気でした、今から考えれば非常に恵まれた時期を学生として過ごしたと思っています。

国立大学法人になって、大学の先生も一人の方が色々な役割を負わされていて、もちろん教育が一番大事ですが、その教育だけではやっておれない時代になりました。もう少し学生さんとの関わりの時間を増やすという工夫は、組織として考えなければいけないと思っております。

昭和50年3月、工学博士の学位を取ってドクターコースを修了しました。学生時代はよき時代でしたが、いいことはそうは長くは続きません。ご存知のように49年は第一次オイルショックの年です。石油の値段が上がるとトイレットペーパーも無くなる—本当は無くなったのではなく皆さんが買い占めたからでした—そういう年でした。その年の翌年に就職した人は、内定取り消しとか、3カ月自宅待機というような、就職の面では大変厳しい年でした。

私は、ドクターの2年の時にほとんどの研究は終わっていた

のです。3年になったら暇になりましたので学部4年生の学生指導を任されていました。それで就職活動を開始しようと思いましたら、今言いましたようにオイルショックがおきました。あのころは、ドクターの学生というのは会社に行くとい



【写真】インタビュアーに答える松井機構長（左）。右から加藤、皆川（6月10日、エコトピア科学研究機構長室）

うのはほとんど無かったですね。

私が先生にそろそろ就職活動をと仰いましたら、まだ早い。「目明き千人メクラ千人」——いい仕事をしていけば、自ずと声がかかるもので自分から就職活動をするという下品なことではない方がよいということ、多分、今思うと先生はいろいろ私に相応しいポストを考えていてくださったと思うのですけれど、とにかく就職活動は出来なかつた。あの頃は、自由応募というのは無いのです。大学の先生が推薦状を出せば、割と就職する事が出来ましたが、学生が勝手にやることは無かつたのですよ。ですから私も先生がそう言われるならばと、ふらふらとしているうちにオイルショックで、本当に私は昭和50年3月に卒業しても就職できなかつた。

と云っておりましたら、先生が「大丈夫」だと言われ、年明けてから「君の就職先は決まった」と。「何ですか」と聞きましたら、日本学術振興会の博士奨励研究員に決まったと。奨学金と言いますか、まあお金は出ると言われました。それで4月から9月まで同じ研究室にいました。9月までというのは、そこからアメリカに行きました。

私のポリシーとして、同じ場所、同じ組織に10年以上居たくない（居ると成長が止まる）という考えがあります。組織の寿命、システムの寿命は10年くらいかなと。先生方が活性化するために、10年経てば組織を衣替えした方がよい、もちろん例外はあります。その人のバイタリティーと個性にも依ります。一部の例外を除けば、組織が人を育てるわけですから。

そこで当時私は先生に、9年間名古屋大学に居た。また実際は6年間原子力の核燃料という材料研究をやってきた、今後は別の組織で別分野の研究をやりたいと言いました。そしたら恩師は偉い方で、バカなこととは言われずに（このまま名古屋大学に居るとは言われなくて）、

「自分の判断で自分の道を開くのはいいことだ、自分で決めなさい」と言われました。それで私は、外国の先生—お金のありそうな先生に、そうでないと雇って頂けませんから—に、自分の履歴と論文リストなどと共に、先生の下でこういう研究をしたいという手紙を送りました。そのうちアメリカの先生から、9月から来いという返事がありました。ですから9月に家族と共に渡米しました。

普通は恩師の紹介で、この先生のお弟子さんなら引き受ける、この先生のお弟子さんなら間違いないということで皆さん外国に行かれるのですよ。そうすると、日本でやってきたことと同じテーマだったり、似たテーマを続けることになりません。私の場合は、日本で行っていたものと違うテーマをやりたいだったので違う分野に行きました。

#### ノースウエスタン大学へ

私は50年9月に渡米してアメリカのノースウエスタン大学の材料科学研究センターの研究員になりました（私の場合は日本

に職は無く、アメリカの正規の  
研究員となっています。就職し  
たわけですね。

私を受け入れてくださった  
ワグナー先生は、イオン伝導  
体研究の大家でアメリカの電気  
化学協会の会長さんでした。私  
はこの先生の論文を日本で読  
み、今まで私が研究してきた半  
導体や金属の挙動とは異なり、  
イオンが液体の中のように早く動  
き電荷の担い手になっている固  
体（いまで言う超イオン伝導  
体、固体電解質）の研究をした  
くなったのです。印象深いのは  
私が、アメリカでワグナー先  
生にお会いした時、私の論文リ  
ストを見れば分かるように、私  
はイオン伝導体の研究なんか何  
もしてない、イオンが動くメカ  
ニズムを何も知らないが大丈夫  
かと言いました。その時ワグ  
ナー先生は、数冊の本と山積の  
論文を持ってきて、一カ月これ  
を読めばおまえなら理解できる  
といわれました。けれども何故  
私を雇ったのですか、先生に

とってリスキーじゃないです  
かと言ったら、私はイオン伝  
導のことで、人に教えてもら  
うものは何もないと思ってい  
る。君は私の知らない半導体  
や金属の分野の研究を興味深  
くやってきた。今までやって  
きた研究の手法や考え方をこ  
のイオン伝導体という違う分  
野に応用してくれ、私は、君か  
ら自分の知らない分野のこと  
を教えてもらって、自分も分  
野を広げたい。おもしろいだ  
とおっしゃったのが印象的でし  
た。

アメリカでは、先生パー  
マネントは準教授と、正教授  
で、それ以外の方はパーマネ  
ントではなくて、いわゆる日  
本で言う任期制、または毎年  
の契約更新ですね。教授はそ  
ういう若い人々とある期間自  
分の勉強したい分野、自分の  
理解が不足している分野を一  
緒にやるのが自由にできる  
わけです。

日本では任期制が無くて、

ずっと同じメンバーで、例えば  
教授、助教授、助手と10年とか  
15年一緒にいますと、みんな考  
え方が同じになってしまふので  
ですね。アメリカでは、1年から  
2年ごとに新しい考えを持った  
若いドクターを全世界から雇っ  
て、一緒に共同研究をやるとい  
うシステムが有効に働いていま  
す。そういうシステムを肌で感  
じました。私は、アメリカで、と  
もかく日本とは違った分野で研  
究をすることにより、ワグ  
ナー先生からの特段の指示もな  
く自分で研究計画を立てるとん  
ど自分で考えてまとめるという  
研究スタイルを通じて、自分が  
はたして将来に渡って一流の研  
究をしていく能力があるのかど  
うか、これは人に言われるも  
のではなくて、自分で冷静に、  
人と比較しながら判断しなけれ  
ばなりません。を考えていまし  
た。アメリカで私は、先ず自分  
が雇われた研究グラント（外部  
研究資金）のテーマをする必要  
がありません。その後は、おまえ

の時間で、自由に何でも面白い  
ことやれ。そっちの方を期待し  
ているとも言われてしまいい  
ブレッシャーも感じましたね  
（笑）。

私は結局、要求されたことを  
半年でやりまして、あとの半年  
は自分で好きなことをやりまし  
た。ワグナー先生は研究セン  
ターのセンター長で忙しくほと  
んど指導はしてくれませんでした。  
私が議論したいと言えば、  
もちろん英語ですけど議論をす  
る。論文を書いたら、先生が見  
てくれる。そういうことはあり  
ましたけど。自分で実験装置を  
作るころからやるのです、誰  
も助けてくれません。経験もな  
い分野で一から、新しいことを  
自分の力で最後までやっていけ  
るかどうか、この辺が私にとつ  
て、自分が研究者になるだけの  
能力があるか、冷静に判断する  
ことにしました。アメリカでの  
2年間の経験で、ある程度自分  
は研究者としてやっていけるな  
と、そういう自信はつきまし  
た。

若い人には、いろいろな所を  
経験し、その環境に適応しなが  
ら自分を冷静に判断することも  
必要じゃないかなと思っていま

## 米・ノースウエスタン大学の経験― 世界中から若いドクターが来て協同研究を。

# アリゾナ州立大では一人で研究室を起ち上げーガラス細工の腕も役立ちました。

す。

ノースウエスタン大学の材料科学研究センターで、自分で勝手にやったことは、銅イオンの一番動きやすい電池物資を探す(創成)することです。電池と言いますとその頃、一般には銀が使われていましたが銀は高価です、材料的に。それで、銅は安いので銅の中で銀に匹敵するイオンの伝導度が高く、イオンがよく動く物質を作ってみよう、探してみようという研究をしました。

努力の結果、その当時世界で一番イオン伝導度が高いルビジウム(Rb)、銅、塩素からなる銅イオン伝導体を創成し、国際会議で発表しました。反響は大きかったです。そのころ、恩師のワグナー先生が「特許にしよう、特許にしよう」と言われましたが、私は儲けるなんて事は考えていなかったで、「イヤだ、イヤだ」と言っていました、ワグナー先生も忙しかったのか特許を取らなかった。

ところが日本の会社は情報網が発達していますね、その後日本の某メーカーが、そこにヨウ素を加えて僕のより三倍くらいイオン伝導率が高い化合物をつくって特許を取り、実用化しました(笑)。まあ日本の役に立っているからいいですが(笑)。今でも引用される件数が多い論文ですね。

## アリゾナ州立大へ

そのあと、北から南に移ってアリゾナ州立大学の固体科学研究センターの研究員になりました。このセンターでは、現在カーボンナノチューブや電子顕微鏡で有名な飯島澄男先生と一緒に一年間いました。そのセンター長にワグナー先生が引き抜かれ、先生に「一緒に行かないか」と誘われたのです。私も、先ほど言いましたように、新しい組織を作るといのは好きで、つい人に頼まれるといやとは言えない性格なのでついて

行ってしまいました。ところがこれが大変でした。アリゾナ州立大には研究室が全く整備されていなかったのです。しかし私が学生の頃、習ったガラス細工実習のおかげで、実験装置を向こうで全部一人で作ることが出来ました。外国人は手先が不器用だけではありません。ガラス細工なんかとてもじゃないけどできないのです。でも私はほとんど作れました。「日本では、研究者がこんな事をやるのか」って(笑)。研究者はなんでもやらなければいけない。

当時、私の(日本の)恩師が言いました。「どうだ、アメリカって所は沢山装置があるだろう」と。しかし、そんなことはなくて、日本と全然変わりませんでした。昭和50年代で、例外はあるでしょうが、日本の研究室と外国の研究室で機器という点でそう変わりませんでした。これから日本の若い人が研究してゆくのに、国際化というの

は必要でしょうね。そこでも日本のアイデンティティ、文化も重要でそれは他の国の人と出会うことによって認識も新たになります。日本人の常識が通用しないということも解ります。外国に滞在するということは研究だけでなくそういう意味で重要だと思えます。

さらに、ノースウエスタン大学の材料科学研究センターでは、ワグナー先生はディレクターでもあり、看板教授だったため半年間引き留められてアリゾナに州立大に動かせませんでした。そのため半年間は、研究室は私一人でした。先に行った私に、パソコン(当時はミニコンです)を買ってくれとか、実験装置を組み立てておいてくれというふうに指示が来まして、それから半年間、先生が来るまでに研究室を作り上げ大変感謝されました。私自身にとつてもアメリカで色々な物を購入して研究室をたち上げたのは良い経験だったと思います。

アリゾナではリチウムイオン伝導体について研究しました。これは発生する電圧が高く充放電が可能で車に使えるということで当時フォードがお金を出し





ていました。結局2年弱アメリカにおりました。ワグナー先生や日本の先生にはもう少し居たらどうだと言われたのです。が、アメリカでの研究生活にも限界を感じていました。英語がうまくないなあと。外国でやっていくにはやはり一度胸、二に英語ですね。自己主張といえますか、このあたりも私は他の先生に比べて弱く、英語でも限界を感じました。

そこで、そろそろオイルショックも終わっているんじゃないかという淡い期待を抱いて、52年7月頃日本に帰ってきました。

日本では履歴に空白が出来ることを嫌いますので、名古屋大学の先生の助言でその年の9月から名古屋大学の大学院研究生になりました。アメリカの先生にはまた、お金を払って研究生になるのかと笑われました。そこから就職活動を開始しました。当然のごとく先生には自分の方針に則って自分思い通りに自分でやりなさいと言われ、決まったら推薦状は書いてやる。君は卒業した身分であるので、大学の就職関係の窓口も先生も通さなくて良いのだと。

#### 日立製作所へ就職

それで私一人で東京の三つの会社に履歴書を持って行って三つ面接を受けて三つとも受けました。ちょうどその頃景気が良くなっていたのかな。それで私は中途採用を希望するため、一番早く探ってくれる所に行くと言っており、結局一番早かった日立製作所に12月1日付けで入りました。それで日立製作

風に外部から変な？人を入れて組織を活性化していくという考え方もついていますね。

その後55年に大学に戻りました。ある日名古屋大の恩師から電話があつて、たまたま私の卒業したところの先生が他大学に行かれ、ポストが空いたので声をかけると。先生はスグ返事をしろと。せっかちなんです。そこで僕が「それではよろしくお願ひします」と言うと、「そんなに簡単に決めて良いのか」と今度は逆に言われました。

大学に戻ると決めたのは、恩師に言われてということもありますが、わたしは企業にも居て、基礎研究以外の応用研究にも自信はついた。ほかにやってみなかったのは教育でした。回り道はしましたが、というより恩師がお釈迦様の手のひらの上で私を動かしてただけかも知れませんが、ともかく大学に戻りました。

日立に入社したとき、今の日立の金井会長さんが「この人も中途採用だったんですけど」私たち中途採用の三人組を呼んで「絶対不利益な扱いはしないからちゃんと日立にいてくれよ」と言われて「よろしくお願ひし

# 市販の装置がないのなら自分で創ろう 超高温の熱容量や蒸気圧の測定装置を開発。

ます」と言った手前、怒られました。私に「何が不満だ」って。それでも有り難かったのは、「こういう身分で行くのだ」って尋ねられたので、「助手です」って言いますと「けしからん」と（笑）。「次の昇進ポストのアテがあるのだな」って訊くから「そんなのありません」と言う。「先生に電話してやる」と言っておられました。後で恩師に聞きますと「数年後には助教授なんかにする予定あるのだから。そうならば出していい」って聞かれたそうです。恩師は「無い、本人の力次第ですよ」って言われたそうです。当然ですね。

## 名古屋大学へ

私が大学に戻ったのは当然先生の恩に報いなければという思いでした。結局5年経って大学に戻りましたが、今までいた研究室と場所は同じでも違うことをやりたいとやはり思いまし

た。組織の寿命は10年といいますが、私は研究にしても、全てを変えるのは無理にしても、5年から10年で次の展開を考えたい新しいことを始めないといけないと思つています。そう思いましたので、こちらに戻つてきから学位を取つたこととは違う研究をやろうと思ひました。それはずっと今でも一貫して考えています。それは自分に苦勞を背負い込むことになりませんが、そうしないと、自分自身と学問の発展はないと思つています。

それで、55年に大学に入り、2000度以上の超高温蒸発の研究（固相—気相反応）を開始すると共に、そのころから装置開発をやりたいと思ひだしました。

今までは、装置を使つて新しい材料を見つけたたり新しい材料の物性を調べるということをしてきました。今度は、世の中に売つていないような装置を自分で作りたいと思ひ出しました。

田中さんが質量分析の装置開発でノーベル賞を取られました。それが契機で今こそ総合科学技術会議で測定機器の開発は重要だと言われていますが、私も、市販の装置がないのなら自分で作つてしまおうと、超高温の熱容量や蒸気圧を測定できる装置の開発を始めました。その関係でさらに5年経つた昭和60年に、大学に籍を置きながらドイツの欧州共同体の共同研究所に留学させて頂きました。今申し上げました超高温の熱容量測定装置、これが非常にユニーク

だということ、先方から「一緒にやろう」と声がかかり、一年間招聘研究員として行きました。

時間がないので話を進めますが、その後約10年後、名古屋大学の大学院重点化ということ、いろいろな複合専攻が出来、その一つ量子工学専攻ができました。私は最初原子核工学専攻所属でしたけれども、大学に来て10年経つたので、電気系、材料

系、応用物理および原子核などの複数の異なる専攻の出身の先生方からなる新しい組織に加わり、また刺激を受けたと思ひそちらに移りました。

## ナノ領域で原子の配列や組成を制御

移つてからはそこでは今で言うナノ材料に相当する同位体制御材料の研究を始めました。ナノテクと言っているのは、ナノ領域で原子の配列や組成を制御するという技術です。私のは原子の質量を制御してやろうと言うものです。原子の質量を変えろことは実際は出来ませんが、区別して利用しようというものです、原子番号が同じなら、元素の化学的性質は、原子の一番外側にある電子の数によって決まりますので、化学的性質や電気的性質などはほとんど変わりません。我々のグループは、質量数の異なる原子をわけて材料を作ろうということを考えたわけです。例えば半導体でよく使われるシリコンですと、質量数が29の原子と28の原子とがあります。それが天然のシリコンにはある割合で混在して居ます。



それを29だけのシリコンにするとか、28だけのシリコンにするとか、28と29を層状に並べ替えるとかの様に、天然の元素とは違い、質量数を意のままにコントロールした材料を作ろうという研究をしています。それは、同位体効果といって熱の伝わり方、イオンの動き方、硬度、融点といった原子の振動に関係している性質の高機能化にもつながります。同じ元素でも原子の質量数の種類や配列をコント

ロールすることによって性質をコントロールすることが出来るのです。そういう機能を制御した材料(膜)を作ろうという研究をエコトピア科学研究機構の長崎先生などと現在も一緒に行っています。この研究は同位体効果に加えて量子効果もでる材料を作るといふ研究の一環で始めました。この量子工学専攻には7年間いまして、本年度からマテリアル理工学専攻に移りました。いろいろな専攻に入っ

たり出たりして、卒業

生には気の毒ですが、「先生また変わったの」って言われましてね(笑)。組織に翻弄されているとは私は思っていない。僕は自分で喜んで新しい組織の創設に加わって、それを自分の研究に反映させながら、成長してきたと思っています。

そういう意味で、人に役に立つこと、新しいこと、新しい組織を自分たちで作っていくことに抵抗はありません。こ

のエコトピア科学研究機構も新しい組織ですが、新しい試み、新しい組織を企画して実行するということに対して興味を持って一生懸命やろうという気持ちは本質的にあります。

私が若い人に申し上げたいのは、いろいろな組織でいろいろな経験を積んで研究の幅を広げて欲しい。そうした方が良いでしょう。たつた一度の人生ですから。できれば産業界の経験もあつたらよいということです。

#### エコトピア科学研究機構の機構長として

今年からまたエコトピア科学研究機構の機構長として、この機構を早期に一人前と言いますか、世の中に認めていただけるような活動が活発にできる拠点になるように最善の努力をしたと思っています。私に機構長としての能力があるかどうかは解りませんが、自分の今までの経験に加えて機構の構成メンバーの方々や全学のご支援と理解があれば何とかなるものと考えています。

私は機構長になってしまったのは、平野総長と私は、1年間

重なって一緒に工学部の評議員を務め、私が評議員のとき、このエコトピア科学研究機構を創ろうという話がでてきました。足かけ2年の議論のもとで、本年4月1日から発足しました。

その構想の立ち上げの最初から私が関与したという理由で、総長からは大変だろうけれど、スムーズな運営のために引き受けて欲しいとの要請がありました。私としては皆さんがハッピーになるという前提で務めさせていただく、そう思ってお引き受け致しました。

エコトピア科学研究機構の研究とも私は関わりがあるので。よ。この機構は、ナノマテリアル、エネルギー、環境システム、リサイクル、情報通信科学等の基幹4研究部門から成り立っています。私が先ほど申し上げた原子質量制御機能材料の創成というのはまさにナノマテリアルです。原子核工学専攻の時に行ったのは原子力エネルギー材料でエネルギーに関連し、アメリカや日本でも燃料電池に関係するイオン(プロトン)伝導体の研究をしており、マテリアルやエネルギーにも関係しておりますし、環境システムリサイク

ル関連では、核分裂生成物の有効利用およびその熱電材料への応用や貴金属類の回収利用の研究も本機構の有田先生としており、従って機構と関係ある研究を以前からしてきております。

### 部局横断型開放研究拠点

この4月1日、名古屋大学が法人になったとき、新しい組織は何が出来たかという、法科大学院とこのエコトピア科学研究機構です。それだけ名古屋大学にとって重要な組織改革と私は思っています。また、この機構のコンセプトも、思いつきで来たわけではありません。名古屋大学学術憲章（平成12年2月15日制定）には、いろいろなことが謳われていますが、基本的な考え方は、人文科学・社会科学・自然科学をともに視野にいられた高度な研究と教育です。この名古屋大学が総合大学としてのプレゼンスを社会にアピールすることが大事だと考えています。



としての強みを社会に還元する仕組みがいないのではないかと、いうことを考えました。文系の先生・学生と理系の先生や学生とが部局を横断して、一緒に、ある期間だけ、興味のある研究プロジェクトに参画するそういう部局横断型開放研究拠点を作りたいと考えたからです。次に、人を中心においた研究を行う拠点がほしい。さらに大学が立地している地域に貢献できる研究を行う拠点が必要と言うことです。

もう一つはあたりまえですが、国際的研究拠点です。国際性といっても、名古屋大学の特色であるアジア・オセアニア地域に関係がある研究をテーマとした拠点ができないかと思っています。人間を中心に、国際拠点で、この地域に根ざした研究、そして、アジアとの関連のあるテーマとなると、基本的には21世紀の持続可能な環境調和型社会―理想社会をエコトピアと名付け―を構築する為に「人間と調和したものの、エネルギー、情報の循環・再生」を切り口にした研究を行う拠点到本機構はなりたいたいと思っています。

あるアジア・オセアニア地域に関係がある研究をテーマとした拠点ができないかと思っています。人間を中心に、国際拠点で、この地域に根ざした研究、そして、アジアとの関連のあるテーマとなると、基本的には21世紀の持続可能な環境調和型社会―理想社会をエコトピアと名付け―を構築する為に「人間と調和したものの、エネルギー、情報の循環・再生」を切り口にした研究を行う拠点到本機構はなりたいたいと思っています。

時間の関係上3種類の融合研究の興味はホームページを見て頂きたくここでは省略します。現在エコトピア科学研究機構の専任として100名を超す教員がいますが、加えて約90名のエコトピア科学研究機構以外の先生方が融合研究に加わって頂ける予定となっています。

名古屋大学が国内有数の大学であるのは間違いない、ただ全部の大学がミニ東大になっても仕方ないと思います。法人になったとき、文科省からくる運営交付金は、毎年数パーセントずつ減っていきます。一律ではありません。ただし、文科省としては減った分を全部なくすわけではなくて、一部は、運営費交付金の特別額として、競争的に与えるとしています。そのとき、その大学の特色を出した研究などの事業をプロポーザして、大学の特殊性、特色を出すようなことをどんどんやっていかないといけないですね。

もう一つ、大学は社会に情報発信するだけでなく、社会とともに、社会に貢献するということが強く求められていますので、社会に根ざした研究、仕組みを作らなければいけません。特

に名古屋大学の位置する中部地域に根ざした貢献が求められています。

### アジアを中心にした人たち と交流深め国際拠点に

エコトピアの基本理念は、まさに、この地域と密接な関係のあるテーマであるし、持続型循環社会構築は、日本だけで考えて成り立つような問題ばかりではなくて、当然グローバルに、アジアを中心にした人たちと交流

も深めて、国際拠点にしたいということなのです。アジアの留学生、アジアの研究者と、共同研究を中心にしたグローバルな研究を重要視しながらやっていきたいと思っています。総合大学部局横断型というだけでなく、学術憲章を具現化するための、一つの試みであるというふうにとらえております。

そのために、各方面にいろいろご理解をいただければなりませんし、組織を作っても魂

を入れなければならぬ。組織を作った成功するかどうかは、組織を運営していく人のマネージメント能力と、中にいる人の熱意、この二つです。熱意のほうは間違いなく、2年という歳月をかけたということもありますし、今まで、実績のある人ばかりですから機構のメンバーは大丈夫です。機構長の一つの仕事として、みなさんが目玉となる融合研究をやりやすい環境作りをするということがあります。

「物心両面の支援」という言葉があります。「心」は、「がんばれがんばれ」でいいのですが、「物」のほうは研究費です。熱意はあるが、志でがんばれと言っても研究費がなくて。だから機構長の仕事として、外部資金を導入する為に企業に本機構のお話をして理解して頂くことを行っています。今までに中部地域だけではなく、関東地域も含めて、いろいろな企業のトップの方々にお会いして、今生協

さんにお話しているような機構のヒストリーと理念、そして研究ポテンシャルの高さをアピールして、産・学・官連携の共同研究をしませんか、エコトピア学科研究機構と一緒にやりませんかとお話させていただいています。

今まで個別の研究室とやっておられたのなら、研究室の枠を超えて、文系の人も理系の人を含めてこういう分野の人と、こういう研究をしたいというプロポーザルはございませんか、その他の文系理系の、他部局のそれにふさわしい方々を含めたチーム作りのお世話をしますと、そんなふうにお願いで、だんだんとご理解いただいているところです。

### 愛知万博を契機に

それと、もうすぐ愛知万博が開かれますね。せっかく、この愛知県・中部地域で行われる万博ですから、地元の大学として、目

に見える形の寄与をしたいと、平野総長とも一緒になって考えています。先日の中日新聞の方が、「何か万博に協力する様なことは名古屋大学としてお考えではありませんか」と来られました。そのとき言われたのは、やはり新聞記者の方はよく知っていますね。万博のメインテーマ、イメージはエコトピア機構と似ています。三つありましてね、そのうちの一つは人間性、もう一つは持続可能型社会なのです。

実はいま平野総長ともご相談して、国際フォーラムを、名古屋大学として目に見える形でやりたいと考え、万博協会とか中部経団連とか、この地方の財団法人や、また愛知県、名古屋市にも働きかけています。また国際フォーラムだけではなく、それを含めて地域連携融合研究なども開始したいですね。

大学に関して私が考えていることは、先ほども言いましたように、ミニ東大になっても仕方がない、そういう方向はやりたくない。地域に根ざした特色ある大学作りをすべきでないかということ。また、大学として機能的に全てを大学の機能として取り込むというのにも賛成しかね

## エコトピアの基本理念は持続型循環社会の構築。アジアを中心にした国際拠点に。

# 研究分野外の人にも、情報発信—分かなりやすく説明する能力を養ってほしい。

ます。「もちは餅屋に任せる」—アウトソーシングという形もあっていい。あとは、本機構を契機にして、ほんとうに文系理系の人がみんな元気で、垣根を越えた研究を、機構を通じてでなくとも結構ですから、どんどんやるべきじゃないでしょうか。総合大学としてそれが求められているのではないのでしょうか。

加藤 興味深いお話でした。そういう話は何うまで知りませんでしたから。エコトピア科学研究機構は今この建物使っておられますが、将来は…。

松井 いい事訊かれました。エコトピアは固有の建物ほとんどないので。旧理工科学総合研究センターと旧難処理人工物研究センターの建物用として少し—基準面積の半分以下が、総合実験棟にあります。それ以外の旧高効率エネルギー変換研究センター、旧環境量子リサイクル研究センターにはありません。今エコトピア科学研究機構は、

この共同教育研究施設の2号棟の約9割と、1号棟の一部を使っている、あとは分散しています。この2号棟と1号棟はご存知のように旧プラズマ研究所の跡地で建物が大変古い。エコトピア科学研究機構としては、建物をお願いしたいと、大学から文部科学省に概算要求も出していたのですが、やはりお金がないのです。なかなかつきません。しばらくは共同教育研究施設を使わせてもらうことになると思います。

加藤 経済学部の前生方も、この共同教育研究施設に今はいらっしゃっていますね。

松井 経済の前生方は、1号棟に入っておられます。あそこは耐震改修用の一時的な避難場所と指定されています。

加藤 もうだいぶお時間をいただいたので、あと、学生、院生や若いみなさんへの一言をお願いします。あわせて生協へのご助言をいただければと思います。

松井 ここで、これからの若い人に申し上げたいのは、大学で短期間にやったことをそのまま会社で、やろうなんて思わない方がよい。やっぱりものの考え方・進め方を学ぶところが大学だと思えますね。あとは、可能ならば、自分が何に適しているのか、何を人生の目的にしたらいいいのか、そういうことを見つけられるような場にわれわれは大学をしたいし、場となつてほしい。

学生さんと院生によく訊かれます。「先生、私には何が向いていますか」と。そこで、「こういうことやったらどうですか」と、私が言うと、うーんとか、自信がありませんと言います。こういうことをやりたいと言う学生が少ない。それは大学がそういう場を、教育を通して提供していないのではないのかと心配しています。学生は目的意識がなく大学生活をエンジョイしているだけではないかと心配になります。しかしながら間違えて

欲しくないことは、短期間で自分が専門家になって、なんでもできるというように誤解してはいけない。やっぱりいろんなところの経験を生かして、少しずつ、ポテンシャル高めていく、地道な努力が必要だと思いません。

## 情報発信が重要

若い研究者には、研究分野外の人に、意味を十分分かっていただけるといえるような情報発信が重要だと認識してほしいことです。私が、いろいろなところで経験したことですが、人に分かり易く説明できる能力をつけ資料をつくるということ、これは大学時代から出た後の経験で鍛えられました。これからは学生にも、人に分かり易い資料を書く—サイエンティフィックに学問的に高いというのは論文で必要ですが、そうでなくても自分の研究がいかに面白いかを説明する文章能力、説明力、そういうものを教育しないとだめだと思えます。

名古屋大学の学生はどちらかというとポテンシャルは高い、でもおとなしい、表に出ない、



それが本当に性格的に表に出ないのか、やればできるのに説明・表現能力がないのか、心配なのですが。評判は非常によい。使う立場としてはちゃんとまじめにやってくれる。しかしリーダーやトップになるための自己アピール、自分のやっていくことをちゃんと正確に伝える能力というのをもう少し身につけられるような教育が必要というのは以前から思っています。学生への要望を言う前に、われわれ大学のほうがもう少し仕組み、システムを考えなければいけないのかもしれない。ただ、せつかく大学に入ったら、出口の時に自分が将来何をやりたいのかわからないという事は困ります。自信がある自信が

無いはともかく、どういうことやりたいか、はっきり言えるような人に育って欲しいし、育てたい。そういう教育が必要だと思います。その為には、大学の中でエゴトピアではありませんが、学生もいろいろな研究をしてほしいし、いろいろな人との交流の場を提供したいし、経験をさせたいと思っています。私の経験でも、いろいろな所を変わって自分はどこに適しているのか、どんな事ができるのか暗中模索でやってきた。少なくとも大学を出る時は、ある程度のバックボーンがあって、自分ではやれると思うけど、本当に出来るか客観的に調べたい、そういうことでした。

そういう意味で旧教養部というのは、文系理系の学生が交流できる場でした。今は教養部が無くなって早くから専門教育を下に下ろすような事になり、大学に入ったとたん自分の組織の狭い人しか交流がない。そうすると、少し不幸かなという気がします。

### 生協と大学―共同でできることを互いに提案して

今度は生協に希望する事は、生協には、名古屋大学消費生活協同組合と名前が付いているように大学の方が出資されています。これは破産しちゃうたら駄目ですから、儲けることは儲けないといけません。大学サイドも考えなければいけないが、お互いに積極的に役割分担をして、生協だけ、大学だけでやるのではなくて、何か共同で出来る事をお互いに提案することが大切です。今の学生の問題も生協抜きでは仕組みというのは考えられないことです。

名古屋大学の地下鉄が出来て、IBカフェという立派な店を作っていたきました。当然、あれは大学の人だけじゃなくて、大学外の人も利用できるようになり、あそこが接点になって、大学外の方―市民といつかこの地域の人と大学人との接点となる場になる事を望みます。生協のほうでもそういうような事を考えておられると思います。

しかしこの共同教育研究施設

地区は山奥です。この地区に入り込むと、高等研究院という立派なものもありますが、一般的には古い建物が多く孤立化しています。我々は、この辺の共同教育研究施設におられる人、みなが集まって、議論・歓談・交流出来る場が欲しい。まさに融合ですよ。せつかくこの再編統合されたいろいろな方々で、融合研究をやるのだしたら、研究だけではなくて、融合できる場がこの地域にあればいいと思っています。

お弁当を販売していただいているのもありがたいのですが。同時に、学生・教職員が集まれる、交流できる拠点も、地下鉄周辺だけでなくこつちにも欲しいね。採算がという事を言われると困るのだけど(笑)。

あと、やはり大学だから、出版部門を充実して欲しい。

生協というのは出版業務というのは拡大できないのですか？あれは出版会があるからできないの？

加藤 やっぱり本の作り方と、いわゆる冊子とか資料で作るものと、多分数量も違いますから。うちは論文とか冊子のようなものはだいたいやらせていただ

# 大学の情報発信、情報が入手できる場としての生協の役割に期待しています。

いていますけれど。市場に出る書籍、ハードカバーのようなものは出してないですね。

名古屋大学出版会ができる時にはずいぶん理事会と相談があつて、協力関係はありましたが、独立されてからはそういう事もなくなりました。

箕浦 出版会はもともと生協が作ったのです。生協が作って独立させたという経過です。

松井 どの大学もそうですか？ 東大出版会もありますね。生協はもう関与してないの？

加藤 協力関係はあると思います。生協でそういった印刷物をやっているところは全国にもそう多くなくて、そういう印刷業務をやっている中では名大は非常に規模が大きい。学会のお手伝いのようなことも含めていろんな事をやらせていただいています。

松井 生協としての事業を再編統合ではありませんが、スクラップアンドビルドをしていか

ないと。昔の事を言うと、生協は食堂と学生生活にあたっての電化製品、そういうものが主だった。今の学生はそう思っていないね。いまでも食堂はそうなんだけど、電化製品というのは、ほかに安売りのところもある。僕が生協でいろいろ買っているのはアフターサービスを期待しているから。身近にあつてアフターサービスですね。生協のおかげで情報が正確に提供され、また広い範囲の情報が入り安心して頼める。生協を出来るだけ使わないといけないという気持ちも古い人間だからありますが、若い人はそんなふうには思わない。生協ならではのサービスも必要です。

僕は大学だったら出版もそういうのもあるかと思つたのですが、出版などと縁が切れちゃうと…。もちろん報告集とか論文集とかつていうのは印刷部で、少数から相当の大部数まで対応できるって事ですね。あの「かけはし」は、学生にも

全員配布されているのですか？

加藤 「かけはし」は、教職員と研究室に配布しています。学生には入学の時にいろいろな案内を差し上げています。ただ、学生には、チラシ的なものはなかなか届かないですね。

松井 学生からアンケートはわりと取つておられますか？ どうやって学生の要望を聞いておられるの？

皆川 お店においてある「ひと声カード」に書いてもらつたり、メールでもらつたりしています。また学生には学生が編集している「Me & via」という機関誌が配られまして、クイズの解答の余白などに書いてもらつています。

松井 生協の位置づけ、収益をどう考えるかで、事業展開は変わるでしょうね。生協を利益追求型の、普通の安売りのところと同じと考えたらいけないと、皆さんは思っています。かといって収益度外視というのはできない話です。さらに皆さんど

なたもおっしゃっているとありますが、生協の営業時間を長くして欲しい。そのために生協は、学生と、大学と一緒にやっているわけですから、学生アルバイトの活用もよいのでは。それは学生をバックアップすることにもなるわけです。学生さんにとつても、それが結局自分も参画しているということ、生協のことを大事にする。

加藤 理事会も学生が半分以上なので、日常的に、どんな企画をやるとか、経営状況がどうとつたことは報告したり、学生の目から情報を発信したり、ということはやっています。先ほど先生がふれられた共同教育研究施設のお店も、なんとかしてよという院生の声から実現しました。離れていることで、分からないまま過ぎてしまうことがあるので、現場の先生、院生の方から、現実的にどんなやり方が出来るか、相談して頂けたら良いと思います。

生協からこれを作つて欲しいとは言えませんが、学生さん、先生方からこういうところに何が欲しいっていうのを出していただきたい。たとえば、理系地区に書籍やパソコンなど購



買のお店がほしいという声がありました。その後のフォロワー教職員、学生さんからの強いバックアップがあれば少しずつ進んでいくと思いますが。

**松井** 私もときどき新幹線の回数券を買って、指定席をとったりします。最近、非常に便利になりましたね。あとは、名古屋大学駅ができたのだから、学内の方をターゲットにしなから、外の人もターゲットにして活動を広げられませんか。地下には生協は入れないの？

**加藤** まだ、地下鉄入り口わりに準備されたスペースが、最終的にどういった形で活用されるのかまではお聞きしていません。

**松井** 大学の社会への情報発信の場としての機能を、生協は持てないのですか？

**加藤** 生協としては、それはぜひやらせていただきたいと思っています。

**松井** そうだね。外から来られるとき、目的を持ってこられる。せっかくなが古屋大学の駅に降りたときに、今日は名古屋大学がどんなことをやっている。今日はどういう風になっている、そんな情報発信があつてい

い。そういう、重要な場所に生協は位置していますよ。商売になるかならないかわかりませんが、そういう「道の駅」のような場所に来れば何か買うでしょう？ 大学の情報発信、情報が入手できる場としての生協の役割に期待します。大学側が分かり易い資料を準備しなければいけないのは確かですが、その準備も一緒になってやっていただきますでしょう。

**加藤** ありがとうございます。いま同窓会にご協力できないかと考えています。OBの方に来ていただいたり、生協の記念品とか名古屋大学のマーク付いたようなものを商品としてご用意させて頂ければ、一般の方とか高校生の方も利用していただけるので、まあ、生協ということではあまり外向きで宣伝することはないのですが、やっぱり大学のパートナーということいろいろご協力したいと。

**松井** それには駅に近いってところが必要ですね？

**加藤** そうですね。だからあの、IB館のコーナーは、もともそういうことを含めてやらせていただきたいて事でご提案をして、IB館の図面に書いて

て頂いた場所なのです。

もつと情報発信を

**松井** 私立大学と比べて国立大学は情報発信が少ない。私の息子が東京の某私立大学に行っているのので解るのですが、しつこいくらいケアというか大学からいろいろな資料が、両親や本人に送られてきたり、いろいろな情報が流れてきます。この地域に何とか先生が講演に来ますとかね。卒業してからも来るのだからすごいもんだと思います。お金かけています。また自分の大学のカードで払うと何割引なんてやっています。

名大に来たら教えてやるという態度ではなくて、少なくともせっかくなが古屋大学の駅から気楽に来れるような場所で大学の説明もできる人がいる、そこに来ればモノも買えてね、できれば、そこで学生さんを使ってもらって。そうすれば自分の大学への愛着もあるだろうしね。

常日頃情報を流してもらっているこの「かけはし」ではないけど、この封筒に入れてもらっていますね。それは私にとつては身近に感じています。その都

度、わたしも生協のメンバーである。生協が提案するのか、大学が提案するのかは別にして、僕は名古屋大学消費生活協同組合というのは名古屋大学の一つのブランドブランドというのは部局、組織であると僕は思っています。そういう意味では大学にとつてなくてはならない存在だし、逆に言えばお互いに無理も言えるパートナーだと。それはなぜかと言えば、みんなが出資者になり、時代とともに大学と一緒に歩んできた組織だからです。お互いに相補的であり、自分だけで成り立っているわけではなく、恩返ししなくてはとそう思っています。

**加藤** 長時間にわたって貴重なご意見をいただきました。これからの取り組みや生協の運営にも生かしていきたいと思えます。貴重なお時間をどうもありがとうございます。

\*\*\*\*\*

(インタビューは6月10日エゴトピア科学研究機構長室にて。聞き手は、加藤理事会室長、箕浦常務理事(人間情報)、皆川常任理事(工)。文責は「かけはし」編集委員会にあります。見出しは編集委員会がつけました)

# たった一個の ブナの実を求めて

名古屋大学情報科学研究科 広木詔三

梅雨入りしても晴れ間の暑い日が続くこのごろである。

四月は温暖で、五月を待たずにツツジが咲き始めたのに、五月には、北欧の冷たい風がジェット気流に乗って日本海を渡ってきたため涼しい日が続いた。グローバルな影響がすぐに感じられるこの頃である。

最近、ラヴロックの『地球生命圏』という本を読んだが、それによると大気や海洋を含めた地球全体に生命を維持するホメオスタシスが働いているのではないかとという仮説を述べている。グローバルに恒常性が維持されているとは考えにくいが、人間の活動による大きな変化を巨大な海と大気がバッファアールとなつてその影響を緩和している可能性は大きい。

私たちの成長に欠かせない甲状腺ホルモンの構成要素である

ヨウ素は海藻が排出して、それがヨウ化メチルとして気化して陸上に供給されることを指摘している。

ところで、五月の連休に、久しぶりにフィールドにかけた。ブナの実生の調査に出かけたのである。昨年、ブナが豊作だったからである。新穂高の左俣では一九九五年以来、八年ぶりに豊作となつたのである。

五月四日に高山に宿泊し、翌日濃飛バスで新穂高温泉へと向かった。雨天の予定が、新穂高ロープウェイのバスの終点に近づくと頃は雨も上がった。

登山道の道ばたでは大きなフキのとうが咲いており、調査の時期が少し遅かったかなと心配

になった。

急カーブの登山道を進むと、笠ヶ岳が姿を現し、残雪も見れた。

さらに進むと、雪渓が登山道を覆っていた。すでに登山者の足跡がついていて、簡単に越えることが出来た。

いくつか小さな雪渓を越えた後に、巨大な山のような雪渓に出会った。そこは数年前に大きな斜面崩壊のあつた跡で、とくに裸地の部分では雪が凍って融けにくくなっているのである。すべてでなかなか登ることが出来ない。脈も乱れてくる。つま先で凍った雪に穴をあけ、一歩また一歩と登る。その雪渓の上部はほぼ平坦であるが、見るとその規模の大きいことよ。巨大な雪渓を越えると目指すワサビ平である。

去年ブナの実を拾った樹の下でさっそくブナの実生を探し始めた。凍った雪がまだ林床に残っており、氷は冷たく痛い。しばらく探して、一つも見つからなかった。

その場所は諦めて、もっと奥

に進み、ふたたび探し始めた。

殻斗(クリ)のいがに相当はたくさん落ちていたので、ブナの実も落ちたはずだ。昼食を取る間も惜しんで調査を続ける。ようやく、雪解け後間もない地面に一個体を見つかる。根は地中に伸びて、子葉を包んだ果皮が立ち上がっている。写真を撮ろうとするが、レンズが曇ってしまった。ピン트가合わない。何とか撮影したが、念のために実生を掘り取って、持ち帰ることにした。

二時間以上もかけて、ついにブナの実生は一個しか見つからなかった。

連休は混んでいるので、帰りの特急は予約をしてある。それに間に合うバスに間に合うように戻らなければならぬ。

私はまた来た道を引き返し、ゆつくりとまた雪渓を越えて下山した。多くの登山者が私を追い抜いて行った。最後の雪渓を越えたところで、ハイヒールを履いた女性を連れたカップルに出会ったのには驚いた。

その翌週の月曜限目の授業のなんと辛かったことが。

# ニユースに一喝!

## 人を呪わば穴二つ

今国会の年金法案審議の最大の成果は国会議員の欺瞞性がまざまざと浮き彫りにされたことである。国会議員諸公年金未納問題は、制度的欠陥もあるが、額の問題ではなく、国会議員たちの意識の問題が一番重要である。優遇された年金制度に守られた諸公は国民年金など歯牙にも掛けなかったのだから、

と言われても返す言葉は無かる。制度改革のために年金一元化は必要だと思いが、それを言うときには、国会議員の年金も一元化して欲しい。今回のいろいろの動きを見ていて思った。如何に口先だけかということ。そうでないと言うなら、実を持って示して反論して欲しい。国会議員全員とは言わないが、今や「私はきちんと払っている」と言ってもなかなか通用しない、ぬれぎぬを着せられた方々の発憤をお願いしたい。

未納問題の動きは国民年金のコミーシャルをしていた女優の未納発覚に始まった。福田官房長官は社会保険庁の不明をな

じった。ご自身がその未納によつて辞任に至ることはこのとき思いも寄らなかつたのである。まさに、一寸先は闇だ。そのうちに小泉内閣の閣僚の未納問題が持ち上がった。それを菅直人民主党代表が、「未納三兄弟」と揶揄した。その途端に、ご自身にも未納があつた。遂に、民主党代表を辞任せざるを得なくなつた。小泉さんの評が面白かつた。残念だつたでしょうね、政権を取ろうと思つていたのでからと。その前の失脚。

それをまた公明党のお歴々がこつびどく攻撃した。法案が衆議院を通過してまもなく、事もあろうに年金党を自称する公明党の代表神崎氏をはじめ幹事長たちの未納が発覚した。目くそ鼻くそを笑うというのはいまいう事か。又、その処分にいまいち納得しかねる点がある。「謹慎」と言つても、一体誰がするのだろうか。確かに、未納の量も問題だろうが、未納期間によつて処分に軽重のあるのも解しかねる。基本的には前に言つたとおり意識の問題だ。意図的でなかつたことは、皆さんそうだろう(意図的であつたとすれば、又何をかいわんである)。とすれば、未納金の多寡によつて、処分に差があるのはおかしい。

そのほかにもほとんど全ての政党に渡つて未納者が居る。

国民に年金を考えさせる効果はあつたが、確かに年金制度に対する不信もおつた。それより何より、国会議員が本当に国民のことを考えているかということに対する不信を増幅させたことは間違いない。猛反省して、その実を早急に示さなければならぬ。

(田)

# 第76回通常総代会が

## 開催され、140名が参加

### 全議案が賛成多数で可決、新役員が選出される

去る5月28日金曜日、午後5時から南部食堂ホールにおいて第76回通常総代会が開催された。

確定選出総代数は百九十一名で、総代の実出席九十五名、役員、生協委員、生協職員を含めて百四十名を超える組合員の出席を得まして、盛大にまた活発に討論が行われた。今回はあらかじめ提出された書面議決三十九名と代理人出席十二名の百四十六名の総代の出席で成立し、六時半までのテーマブースによるポスターセッション、その後は03年度活動報告、04年度活動方針決定の第一号議案の報告、03年度決算報告・剰余金処分

案、監査報告と04年度予算などの第二号議案が提案された。全体発言では事前に予定されていたユニセフ班、平和憲章エッセイ、リサイクル班、院生委員会活動、理学部総代の五件と新たに二件の発言があり例年になく活発であった。このあと、別のところで理事が集まり、発言への回答を話し合った。その間、総代さんには生協トリビアと題して生委員会による生協のおいしい使い方があり、学生たちの底力、瞬発力を感じさせる内容で学生の興味関心をベースに情報提供することは意味があり、内容的にも好評だったようです。

また全体で理事会のまとめとテーマブースの報告として、激甚災害、留学生の取り組みが話された。議場閉鎖の後、第一、二号議案の採択、新理事の推薦および信任投票が開始され、今回は書面議決書の集計分も加わって少し時間がかかった。その間、一年生のクラス写真コンテスト各賞発表をやってもらい、非常にわかりやすくまとめられ、全体でも大変に盛り上がった。事前に参加者を確認し出席してもらうことで表彰をすることができた。議案の準備および事前討論

ダイジェスト版七千部作成しほぼ配布、本議案書は総代・生協委員に限定して配布した。事前の討論については今年度は議案書説明会はほとんど開催できなかった。総代・生協委員による意見集約については理学部学生総代をはじめ、相当の方が意見集約に協力し

てくれた。ここへのフィードバックも期待されている。総代・生協委員の役割

クラスの意見を持ち寄るという意識を相当持つて参加いただいた。全体発言でもそういった生協の運営にどう関わるかと言うことでは意識が高い。「総代」を強調するあまり、生協委員のところでの総代会の位置づけがきわめて低くなった。総代・生協委員に対する理事会からの継続した情報提供と、運営に関わる議論等への参加の場や参加形態の検討が必要になる。

今後の理事会の対応として、  
(A) 総代・生協委員に継続して情報提供をしたり活動を作っていくための検討。  
(B) 生協が、組合員向けに提供している情報をトータルにプランニングする体制を作る。などがあげられる。具体的には機関誌を通じて総代・生協委員に情報を提供していく。

## 各テーマブースの報告

### 「文具とお菓子」

ここでは、コープ100円菓子や大学生協オリジナルの文房具を、実際の商品を見ながら紹介しました。大学生協オリジナルの文房具には、組合員さんの要望から出来たものがたくさんあるんです。

### 「健康安全」

体脂肪測定器、握力測定、アルコールパッチテスト等の健康診断用の道具が揃った『健康パオ』を用いて、生協の健康に関する活動の紹介をしました。共催では、給付だけでなく予防の提案も行っています。

### 「地震防災」

今後三十年の間起こると言われている東海地震。名古屋大学災害対策室の方や、震災ガーディアンズ(Url: //2.csx.jp/users/shinsai\_g/)の方に東海地震についての説明や、私たちが出来る防災に

ついて紹介してもらいました。普段余り聞けない話が聞けて好評だったようです。

### 「組合員の声」

声カード班による『良い声カードの書き方』レクチャー、また、実際に声カードを書いて生協に要望を伝えてみよう、ということをやりました。職員さんにも参加してもらい、生協に対して現状を伝えることができるということを知ってもらいました。

### 「ユニセフ・平和」

ユニセフ班の活動の紹介がありました。フェアトレードについて、ユニセフについての詳しい説明がありました。また、教職員委員から、平和憲章エッセイについての説明、参加を求める呼びかけがありました。

### 「激甚災害対策」

前半に引き続き、災害対策室と震災ガーディアンズの方にお話ししました。昨年北部

厚生会館にて、災害対策室と協力して行われたイベントについての紹介、地震に対する心構えなどの話がありました。

### 「共済の取り組み」

食生活班の、『シヨッカータイムス』や新学期の料理講習会等の活動を通して『食と健康』というテーマで共済の取り組みを紹介しました。食堂のメニュー、また、下宿生がよく作る・食べるメニューで足りない栄養素は何か、それを補うにはどうすればよいかなどの話が出ました。

### 「大学院生」

『大学院生と生協』というテーマで、大学院生にとって利用しやすい生協とはどのようなものか、また、生協に大学院生の実態を知らせるにはどうすればいいのか議論がなされました。大学院生以外の参加者もあり、盛り上がりました。

### 「留学生」

文化交流班と、留学生の学部生総代の方を迎えて議論がなされました。食堂のメニューにアルファベットで説明を付けた方がよいか、また、日本語のままの方が留学生にとって日本語の勉強になるのでないかとの意見も出ました。『読書・学生に読書をすすめる班』

学生に読書を勧める班の活動についての紹介がありました。現在書籍で行っている『読書マラソン』の目的や方法についての説明、推進がありました。また、『学読夏の陣』など、学生に読書を勧める班の活動についての説明もありました。

# 名古屋大学へ昨年度同様に奨学制度への寄付をさせていただきました

平成16年6月14日

名古屋大学 総長殿

名古屋大学消費生活協同組合  
理事長 福家 俊朗 ㊞

## 名古屋大学への奨学制度への寄付について

総長におかれましては、日頃より当生協の活動にご理解を賜り、深く感謝しております。

先日の新理事長就任挨拶時にもご報告申し上げましたが、本年度の総長顕彰制度の充実に向けて第76回通常総代会（5月28日開催）にて、名古屋大学への奨学制度への寄付に関して継続して取り組むことを確認しましたので、制度充実に向けてご配慮願います。なお今年は、昨年度の50万円から100万円に増額をします。

### <今回の目的>

法人化を機に大学の大きな変化の中で、「大学と社会」「大学と地域」という今まで以上に優秀な人材の発掘と育成、そして大学の情報発信が求められています（当生協としても同様です）

- ① 学生生活4年間の中で、「名古屋大学で充実した生活を送ることが出来た」「自らの生き方に重要な機会になった」「勉学・研究面で大きな成果を得ることができた」そんな学生に対して生協として商品やサービスというお店での生活支援でなく、違う形での支援活動を考えてはどうか。
- ② 奨学金は、生活が厳しいからという側面支援でなく、学生が大学という場を通して地域活動への貢献（ボランティア活動）や奉仕活動そして学業やスポーツ面でとりわけ秀でた成果を残し、且つ大学にとっても大いに評価される活動をされた方を奨学金として支援をさせていただきたいと思えます。
- ③ 生協の利益は、基本的には学生・教職員への還元となります。

そのためにも健全な経営体として維持することは当然であり、大学にとっても安心していられると思えます。

以上

## 活動交流会 (愛知大学・車道)

大学生協連・東海地域センターと東海事業連合は、6月19日(土)愛知大学車道校舎で活動交流会を開きました。

交流会では、鹿児島会長の開会あいさつで、大学生協連東海会館(国際櫻鳴館南)がいよいよ6月末に竣工し、8月中には業務を開始することが報告されました。つづいて03年12月に生協を設立した愛知県立芸術大学の水谷先生からあいさつがありました。

つづいて二つの報告——東海事業連合第5期中期計画(04年〜07年)案の提案と説明、愛知インターカレッジコープと大学生協の展望が報告・提案されました。

第五期中期計画案は、第四期における新生協の設立や組合員の増加、新規事業の開拓などの成果をもとに、国立大学の法人化や景気回復が遅れている情勢の中でも着実な前進と事業連合自身の内部改革

をすすめることが盛り込まれています。

愛知インターカレッジコープ設立のとりくみでは、愛知県内の四年制大学44大学、15万8千人のうち、生協のない大学29大学8万6千人を対象にした事業であり、大変だが展望のある仕事であり、ぜひ早期に実現したいと提案がありました。

つづいて三つの分科会——「店舗・新学期活動」「生協の魅力」「学びと成長」で活発な意見交流がありました。

交流会には東海4県の20大学171人の学生院生・教職員・生協職員が参加しました。交流会終了後には、愛知大学車道校舎の生協店舗を見学しました。名大の「理系シヨップ」ほどの小さな店舗ですが、組合員の要求に配慮した品揃え、職員の対応が印象的でした。  
(報告＝柴田)



寺川史朗先生



笠木 透と雑花塾

## Peace Now! (三重大生協主催)

7月3日(土)三重大学にて三重大生協の主催する「Peace Now! 君も考えよう平和のために! 憲法のお話&平和コンサート」が開かれました。

一部では寺川史朗先生(人文学部・憲法)による有事法制、イラクへの自衛隊派兵と憲法9条の問題などの講演があり、二部は、笠木透さんと雑花塾のみなさんによる平和コンサートが開かれました。寺川先生の講演では、今年6月に成立した「国民保護

法」が、タテマエは日本有事の際に国民をどう守るかを定めているように見える、しかしホンネは日本有事の際に国民をどう排除するかを定めたものであることをいくつかの例をあげて説明がありました。また、憲法9条を例に上げ、「守れないような法律はあつてもしょうがない」という憲法学者もいるが、私はそうは思わない。条文に忠実に現実を合わせるべきだという立場です、と話されました。

(報告・写真＝柴田)

## 納得できない

毎年、扶養申請のための書類の提出の際、子供が一定の年齢を超えると非課税証明の添付を求められる。それはやむを得ないことだから、毎年、その時期になると区役所で貰ってくる。

今年は、職場が変わったこともあり、殊の外沢山の書類が必要であった。それも仕方のないことなのだろう。その中で、一つだけ納得しかねるものがあつた。説明を求めている。その間に、制度が変わったわけではない。役所の係官には、このままでは納得できないが、係官の責任というわけではないので、分かるように説明して欲しい旨を言つて引き下がった。

こういう事だ。大学院生で少しだけ非常勤

講師をしているので若干の収入はあるが、課税される程ではなく、やはり、健康保険などの扶養家族になる。その認定のために在学証明や、非課税証明が要る。下宿先は他県であるが、住民票は私の居住しているところにある。選挙の時などわざわざ帰ってきて投票する。昨年は、私の住んでいるところの区役所でなんの故障もなくその証明書が出た。ところが、今年はそれが駄目で、実際に居住しているところの役所に行つてくれと言ふ。去年と、年齢が一つ増えた以外は何一つ状況は変わっていない。まことに不可解。それで、上のように言つたのだが、「税金は単年度毎のことだから」とかなんとか、ほとんど意味不明の答えしか戻つてこない。くれない物は仕方ないけれども、どうしてそうなのか納得しかねる。

実際居住しているところで、アルバイトをし、若干の収入があり、一旦は源泉徴収されているということがあるのかも知れないが、昨年は出来たことが今年は出来ないというのが何とも不思議なのだ。住民税関係は、一年遅れということもあるのか。

それでも非課税なのだから同じように思うのだが。それに何より、そんな書類は、コンピュータでやっているのだから、他県からでも取り寄せてくれても良さそうなものだ。とにかく納得しがたい。(T 2004・4・30記)

## 勇壮・かわいい

日本各地のいろいろのお祭りの報道がある。御神輿を担いで練り歩いたり、たいまつをかかげて走り回ったり、馬に乗って大変な坂を上つたり、寒いさなかに冷たい水につかたり、火花の火を浴びたりと実に多種多様。それを報道する番組で常に使われ、言つては悪いけれども、バカの一つ覚えのように使われるのが「勇壮な武者の振るまい」とかなんとか、とにかく「勇壮……」の一点張り。

子供や若い人達たちが、何が

良かったと聞かれて「……がかわかった」などというのと同じ事。

そう言えば、小さな子供たちは、「かつこいい」「かつちよいい」の一言。大人も段々

そうなりつつある。

そういう紋切り型にも便利などころもあるけれども、もう少しなんとか、自分の気持ちを的確にうまく表現できないものか。

(T 2004・5・18記)



5・6月号  
の感想

**IBカフェメニューありがとう**  
★IBカフェの詳しいメニューが掲載されていてとても参考になりました。  
【ムコ】

**IBにちょっと迷った**  
★IBカフェ行きました。でも、ちよつと場所がわかりにくい所であつて迷つた。  
【FOOTBALL】

**IBカフェ利用しました**  
★IBカフェで何が食べれるのか？、を知りたかつたので、有難く利用させてもらいました!!内容もわかりやすくピックアップされておき、楽しく拝見しました。  
【taka\_s】

**土岐地区では利用できない**  
★土岐地区だとIBカフェを使うことができないで残念です。生協のホームページも模様替え

されたようなので、特集を組まれたらいかがですか？  
【ぶらざま屋】

ひらがなも併記して

★魔言のローマ字の表記法には確かにそうだと思つた。よく駅や信号交差点で漢字の上にローマ字でふり仮名が書かれていることがあるが、発音方法が不明だし、海外からやつてきた方とはともかく、日本人の場合頭の中のでひらがなに直さないと読み方がわからないので、ひらがなも併記したほうがわかりやすくして親切だと思つるのは私だけだろうか。答えがアルファベットのクイズは簡単な気がします。  
【だるまおとし】

まったくだ

★ローマ字の表記法がなかなか「まったくだ」と思つた。  
【BAIKALIST】

錦鳥は笑えた

★ローマ字の表記方に関する記事が興味深かつたです。「錦鳥」が笑えました。【しげによん】

ローマ字について

★ワープロのローマ字入力でも実にさまざまな入力方法があつて、それぞれカスタマイズできるものも多いです。例えば「ず」を入力するのは「[ZU]」で「づ」は「[PU]」だとか、小さい「つ」を単独で入力するのに「[TE]」なのか「[TU]」なのか、はたまな「[E]」と入力してかな漢字変換で「つ」が出るのを待つとか、とか、。。。。調べてみるとなかなか奥が深いですよ。  
【ナンバー6】

富士山は印象的でした

★この3月に退職された中條さんの「ー私の百名山ー富士山」をとても興味深く読ませて頂きました。留学生との山登りから富士山へのあこがれ、愛着、と都会に育つた私にはとても印象的でした。  
【松本哲男】

記事が固め

★初めて読んだけれど、固めの記事が多かつた。【なつちゃん】

意見と通信

**研究内容紹介し続けて下さい**  
★何年も本学に通つていながら学内のことは殆ど知らないことが多いです。今後も、研究室訪問を続けて面白い研究内容等の紹介を続けてください。  
【だるまおとし】

サッカー特集

【FOOTBALL】

新しさを伝えて下さい

★IBカフェも含めて、学内キャンパスの新しさを伝えることは重要だと感じます。(かけはしのような存在が無いと、友達に教えてもらうか、自分で見つけるか・・・ハッキリした情報が得られない)。キャンパス内で変わったことがあつたら、今回のように特集して頂けるとうれしいです。特に、最近「棟の建て替え」の時期なので・・・。  
【taka\_s】

## 北部生協まつり (6月15-18日) 教職員委員会企画報告

### 第31回生協まつり献血結果

93名のご協力ありがとうございました。

今回協力をお断りした方が17名いました。理由は薬の服用中や比重不足でした。特に女子学生の方で鉄分不足が目立ちました。毎回9割程度400mlの協力者がいたのですが今回は75%と低かったです。2日間で93名のご協力をいただきました。

### 映画上映会

#### 「マトリックス レボリューション」に10名

宣伝不足でしたが何とか2桁の参加者が得られました。プロジェクターが暗く通路からの照明漏れと騒音が気になりました。

献血結果	受付者数	献 血 者		
		200ml	400ml	200ml 換算
6月15日	56	11	39	89
6月17日	54	12	31	74
計	110	23	70	163

### ビアガーデン

6月17日(木)午後5時30分開店のビアガーデンをゆ〜どんにて開催。参加者は先回を上回り50名で、8時閉店まで多くの方で賑わいました。宣伝不足の割には利用者が多く、まつり期間の定番として期待して来る常連客も増えてきています。IBカフェの夜の利用が伸びないが、ビアガーデンに来てくれるのは安くて手頃な飲み屋に対する潜在的な要求があるのでしょうか。ビアガーデンの収益7,165円はユニセフ協会に募金しました。

## 教職員委員会活動日誌 (2004年5・6月)

月 日	事 項	場 所
5月 6日(木)	教職員理事会議	ゆ〜どん
10日(月)	5月度第1回教職員委員会	ゆ〜どん
11日(火)	賃金制度プロジェクト	ゆ〜どん
12日(水)	新入教職員歓迎生協ガイダンス	グリーンサロン東山
13日(木)	5月度常任理事会	ゆ〜どん
20日(木)	5月度理事会	フレンドリィ南部
24日(月)	総代会運営確認会議	南部食堂
25日(火)	5月度第2回教職員委員会	ゆ〜どん
27日(木)	総代会リハーサル	南部食堂ホール
28日(金)	第76回通常総代会	南部食堂ホール
6月 5日-6日	名大祭ミニ平和資料館(平和憲章委員会主催)	共通教育棟32番教室
7日(月)	6月度第1回教職員委員会	IBカフェ
9日(水)	賃金制度プロジェクト	ゆ〜どん
10日(木)	インタビュー(松井エコトピア科学研究機構長)	エコトピア科学研究機構長室
	6月度常任理事会	ゆ〜どん
12日(土)	お茶の産地&工場見学	静岡県島田市向谷
14日(月)	総代会議(中止)	グリーンサロン東山
15日-18日	北部生協まつり・15・17日献血、17日ビアガーデン	北部厚生会館および周辺
	16日「マトリックスレボリューション」上映会	
16日(水)	名古屋大学・生協懇談会	グリーンサロン東山
19日(土)	東海地域センター・東海事業連合活動交流会	愛知大学車道校舎
23日(水)	6月度第2回教職員委員会	IBカフェ
24日(木)	6月度理事会&理事交流会	フレンドリィ南部
26日(土)	東海地域センター理事会	東海地域センター
29日(火)	環境タスク会議	ゆ〜どん



\_\_\_\_\_ アンケートに \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ ご協力願います。 \_\_\_\_\_

第 254 号

クイズのこたえ \_\_\_\_\_

☆ 今月号を  
読んだ感想

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

☆ 記事にしてほしいこと。生協へのご意見やみなさんからの通信をぜひ。

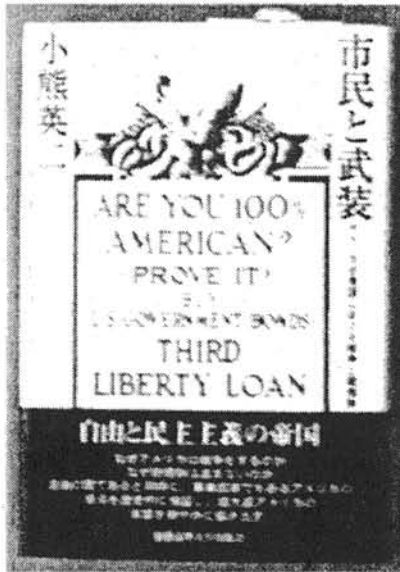
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

COOPクイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。



# お薦めの今月のこの2冊

「市民と武装」 小熊英二著  
慶應義塾大学出版会



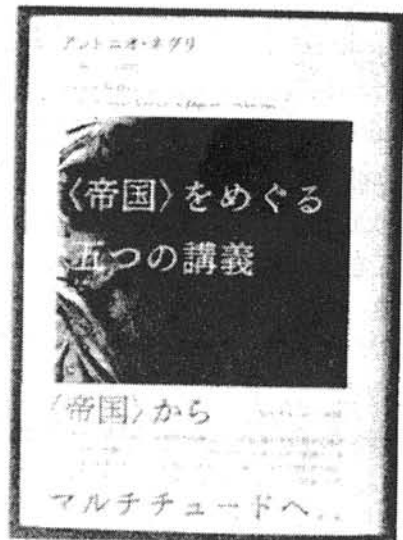
『単一民族神話の起源』『〈日本人〉の境界』など、日本・日本人とは何かを問い続けてきた著者が、今回はアメリカ論に挑む。アメリカ憲法の「市民武装権」に着目し、アメリカではなぜ市民が「武装」するのか、なぜ銃規制がすすまないのかを歴史的に検証する。



今月お薦め  
この2冊を選び  
ました。  
猿谷高明  
南部書籍

昨年日本でも発売され大きな話題をよび、名大生協でも人文書のベストセラーとなった、ネグリ&ハートの『〈帝国〉』。本書はこの『〈帝国〉』を、9・11以降の世界情勢もふまえながら、著者自身の深い考察をもって縦横に論じた、〈帝国〉論の入門・解説書。

「〈帝国〉をめぐる五つの講義」  
アントニオ・ネグリ著 青土社



## 名古屋大学消費生活協同組合

☎ <052>781-1111 (内線7540)

- 書籍(和書・洋書・雑誌)に関するご相談は
  - 北部書籍(内線7544)
  - 南部書籍(内線7551)
  - 北部旅行・サービスセンター(内線7543)
  - 医学部書籍(内線5208)
  - 大幸書籍(内線5552)
  - 南部旅行・サービスセンター(内線7550)
- 文具・事務用品に関するご相談は
  - 北部購買(内線7542)
  - 南部購買(内線7549)
  - 医学部旅行・サービスセンター(内線5213)
- 印刷とデジタルデータに関するご相談は
  - 医学部購買(内線5209)
  - 大幸購買(内線5552)
  - 印刷・情報サービス部(内線7552)
- パーティー料理・弁当に関するご相談は
  - 農学部購買(内線7557)
  - 弁当部(内線7553)
  - 理系食堂(内線7555)
- レストラン「花の木」(内線7605)